119

寛永諸家譜

藤原氏癸廿五冊之内六

文流

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186 (119)
函號 甲 76 1

国立公文書館
National Archives of Japan

右田　荷田　河田
雑波田　細田　茅田
権田　田口　重田
稲田　枚田　持田
指田　奥田

寛永諸家系図傳

藤原氏　資六

支流

右田

重則

右衛府　生国　参濃

豊臣秀吉　天正七年八月播州三木乃戦場ニ

浅草文庫

そして死を歳五十一　法名道乾

道号為天

重勝

従五位下　兵部少輔　生母同前

天正十八年小田原陣のとき病死

文禄元年朝鮮陣をたゝむ時

陣の後　家ありて堺別松坂乃城

を守　采地三万五千石を領じ

慶長五年関原陣のとき伊勢城

より同国津城へ百騎の援兵を

くゝ敵軍と　抽戦ゝ忠を

抽ずゝ

東照大権現二万石とくゝ所乃

加合五万石を領知

同八年

大権現乃命ゝ江州

作和山城善請とたもう

同十一年 江戸石垣普請をたもう

同年六月十六日小平次軍七歳

法名道運 戒名天関寺号 國泰

此時重恒猶以[illegible]

大指状重勝が未 重信に命じ重恒

相代て重勝が家督とたもう

重恒

生年同前

秀吉なり記り秀頼りたう

元和元年六月七日大坂陣り戦

死す 行十八歳 法名玄霜 道号

古剣

重直

兵乃帰 生國山城

左徳院殿

将軍家しゝを入らるゝ

重政

兵九郎　生母義蔭

将軍家しつゝ入らるゝ

領地五百石をとらる

重弘

平三郎　播州しゝ内

寛永三年三月十一日初て

将軍家しゝ謁しをらる

同四年　清書院番をとらる心

同七年　清小性組の番をつとめ

今御番頭番をとらる心

重治

従五位下　大膳大夫　生母義濃

東照大権現

台徳院殿よりをくらる

寛長十二年 後府乃御城普請
をはじむ
同十三年 中村伯耆守卒に
付伯州米子乃城主と
はじむ
同十七年
大猷院の御上洛尾州
名古屋の城普請をはじむ
同十九年 江戸御西丸乃普請を
はじむ
大坂安度より御使を以奉
元和三年 稲葉淡路守勢州
田丸をうけとりて乃ち田丸の
城番をはじむ
同 石州濱田にうつりて所地
五萬石をうけ又丹波をもて
又平石をもたまふ
同九年 又月

女子

右徳院殿様御子
姪重姫様御養子
しなく隠居し此時重姫十八
歳なり
寛永二年十一月廿五日御卒
四十八歳　法名道輝
古山　右号

重姫

従五位下
兵部少輔　生母山城
元和九年六月
右徳院殿の命ありて元父重勝
の遺跡柔地五万石を領し
寛永元年同年大坂石垣
普請を幸友なり

兵部少輔重姫ゟ書

同九年
将軍家より御級五百枚とらゝる
同十年 城尾山城守卒ゝる
ときに雲州 松江の城番とつゝむ
同十二年 江戸普請と勤
同十四年 京都警護たゝる卒
してのちまゝに雲州 松江乃城
番をはじむ

家紋 丸内三引両

国立公文書館
National Archives of Japan

蒔田

廣光

法名信下　相模国尾州織津之住

もと岩ヶ織田信長の麾下にあり

そのころ岩ヶ秀吉につふ

文禄元年二月廿日卒　年六十

三歳　法名宗古

廣定

従五位下　左兵衛督　生國不詳

さゝゐ先の秀吉の麾下にありしなり

東照大権現

右速院殿

将軍家に従ひ奉りつる

寛永十三年二十三日に卒し

年六十六　法名日見

定正

従五位下　玄番頭　生國山城

大権現

右速院殿

将軍家に仕へ奉りつる

寛永十七年十二月廿九日に卒し

年六十　法名日照

長廣
數馬助　生國摂津
大膳亮
右法院殿
拍軍家より代々召つかはる

廣則
久右衛門　生國武蔵
將軍家より代々召つかはる

定則
八十郎　生國武蔵

家紋　八曜　丸持筋

国立公文書館
National Archives of Japan

河田

泰親

伯耆守　生國毛利

上杉謙信たのみ京虎しきりに

天正六年信州川中島合戦の時

先手をかりて軍功成りてけり

是によりて景虎感状をさづけ

上洛田の城をあげて小原氏政も
降参書をたてまつる
上州新田より九城よりとりでを
ひらきたりしかばほうをめぐらし
ことにをい家
を他と焼たふこと
謙信威をさかぶく
同十八年死去
東照大権現よりたゝかへをそなつる
文禄二年六十三歳にて死去

政親

伽羅 生国ゑ野
文禄元年十月死去
大権現
右逆院殿よりたゝかへをそなつる
関原陣大坂方の陣に供奉
そのゝち
将軍家よりたゝかへをそなつる

寛永十四年卒七歳にして死ス

親重

半助　生國武蔵

元和三年十五歳のとき発ちて

将軍家につかへまつり御小姓

組乃番をつとめ

寛永十五年より大御番の組入

なり

家紋　菴の内に木瓜

国立公文書館
National Archives of Japan

川田

●某

六郎儀　中國三河　清右衛門
清康君ゟ被下置

某

六郎儀　生國同家

東照大権現より御代々
慶長三年九月十七日より死去
法名 閑心

貞次

六郎兵衛 生母同前
大権現
台徳院殿より御代々
寛永元年二月六日六十三歳
して死去 法名 瑞味

貞則

右兵衛 生母武蔵
元和三年十一月十又日より
将軍家に御代々
寛永六年九月八日小十人の組頭

家役

波し蓑亀

郡波田

憲重

弾正　中国武家

上杉家領ゝつゝ武州松山の城代と移ル

憲次

因幡　武州松山ゝ住

上田暗礁ニ乗シツヽ暗礁ニ没落の段
城外ニ流減シ遂ニ死セ

憲利

長慶尉　生國武蔵
文禄元年卒ス
東照大権現ニ謁シ奉リ
石淵院殿
将軍家ニ仕ヘ奉リ

寛永十二年ニ死セ六十二歳

憲右

太郎兵衛尉　生國同所
寛永二年十月
将軍家ニ仕ヘ奉リ御切米ヲ
賜ハリ安信拵津吉ガ組ニ列シテ
大御番ヲ勤ム
同十年　食邑ヲ賜フ

憲長

若狭守　生國同所

寛永十又年

将軍家ゝ渡しなり元文憲利が

俸禄の内ゝ参いて粮米と口ら

さゝゝゝ

同十六年安信拵ひ守が組ゝ列て

大御番と仕ゝ

家紋　九曲十文字

国立公文書館
National Archives of Japan

細田

康勝

加賀守　生國越前

演松りとして

東照大権現を祈しまつる

天正十八年関東御入国のとき供奉

とゝ共に江戸へとゝまりて死す

康政

清蔭　生國尾張

大炊頭ゝ仕ヘ奉ル

元和八年正月二十三日五十三家

康次

清義　生國武蔵

享年七十三年

右法院殿ゝ召ツカ被

將軍家ゝ仕ヘ奉ル

豊利

立助右衛門尉　生國同所

寛永十又年十一月発病

將軍家ゝ仕ヘ奉ル

家紋

藤丸のうち

国立公文書館
National Archives of Japan

細田

正時

勘三　甲斐
武田信玄つゝふとまこい山縣三郎兵衛
ふかくなる
天正十年甲州一統の後
東照大權現より石おされ井伊兵部少輔

政所ニ成ル

同十八年小田原陣ノ時

蓮池ヲ討死　法名長親

長時

弥太郎　法名日秋　生母同前

正月討死ノ時ハ大久保石見守

甲州ヲ引ケ

ヲ以人体ヲ勘定セリ

重時

小兵衛　生母同前

右近院殿

将軍家ヲ引ケ

寛永十七年二月十九日死　法名日国

成時

小兵衛　生涯武義

重時が姪の子の新が妻へ

むこ取りて遠流とせぐ

家紋　藤丸内ふ

●正重

紫田

文勝　生國遠江

東照大権現

台徳院殿ゟ被召出

寛永二年十一月ゟ発足　四十

又案　法名月秋

正表

信濃守　生母遠江

大僧都

長慈院殿

将軍家ゝ仕人なりまつる

寛永十七年六十歳にて死ス

法名奠誉

正信

四郎兵衛尉　生母武蔵

寛永六年

将軍家ゝ仕まつる

同七年大御番をたまふ

家紋、丸内ゝ下茂九

国立公文書館
National Archives of Japan

権田

●泰長

磯部佑　生國遠江

永禄十二年家康ニ堀江乃城ヲ

あらそふ年領をまもる今ハ

御書あるにより先ヲ行く

東照大権現ゟ先まつる

天正十八年小田原滅亡の後　信長
ゆゑ御鉄炮足軽五十人とあづけ
乃ち　鈎命　しよりて江戸を領乃
御代官とさだめる
文禄元年七十四歳にして死
法名　常叢

春清

小次郎　生国同前

永禄十二年　父春長に於形見
分ける
大樹　秀吉　へ出仕つる
文禄元年三十八歳にして死
法名　常信

春成

平大夫　生国同前
白浜院殿

将軍家より伏見
乃御番所江之又淀城江組
より御番をはたらいもけ能
をくをくまつ
元和元年大坂再陣のとき家
康公が組より屬し伏見をはじ
御帰陣の小こさい又領地をくわへ給
寛永七年四十七歳ゆく花を清
清分

泰朝
小十郎　生國武蔵
寛永之年
拾軍家より賜しをそまつ

家紋　鶴丸

国立公文書館
National Archives of Japan

田口

●右利

伊豆守

玄蕃大丈　道西斎と号す

小原氏政佐竹義重と合戦のとき

歩卒をひきゐて下野の國佐野乃

城を攻刈　右利戦死と　法名道云

長勝
玄番允
又長利と云たしく玄蕃氏と云ふ
法名 良帰

長次
七右衛門 常州玄蕃郡と生る
たしかに玄蕃道云歩と云へ

とも授かれて
右法院殿と云ふ
寛永六年
将軍家と云へ人たまる

幕級也
紙屋の長尾謙信関東と敵対の
ゆゑ玄蕃と名ぐふこと

ときこ小山家衣次ゞ幕紋をなく
うるゝふくこゝも夜とゝいあらさめん
事をこゝふゝれりまりて幕乃
をう一幅思ゝ思ゝそもなり

雲田

守國

周防 室國住濱

芦田下郡守たるべし 右表大出入

つゝ

天正十年

東照大權現甲州新府御進發の

別当義大夫見澤乃山小屋より
義ちにそむいく欲兵東西より
かこむの比新府の通路をふさ
ぎ寺國山中乃間乃を
使くし事三度なり強く欲と
相戦く討死く味く軍三度なり

寺秀
庄屋乃尉　生國同国

芦田源理大夫ひく右衛大夫
くつふ右衛大夫滅元ハと
寺秀舊切ある比くわれく
大権規ハけ人そまり
寛元文年関東陣ハ伏ハ
元和三年二月十又日七十一家也
死ハ

寺光
明く源　生國　伝濃

岩田陸奥守大夫なりしが右兵衛大夫
につゝ甲州新府御陣に
先手秀とたなしく忠信を抽ぶ
ものゝ池へ入り死されく
大權現につゝ人なきまつる
慶長五年関原陣に伏見
元和二年六月十九日死を時に
六十七歳

寺火

長兵衛尉　生國同所
右德院殿にまゐらせ
大坂西の御陣に伏見
にて乃ち
將軍家にまゐらせ

寺信

左近　生國同所

芦田庵理大夫なりしが嫡大夫
りつふ光秀と申すくわれて
大控殿と申人にたより
慶長五年関原陣に供奉こと
のち
石淦院殿に仕へ奉てまつる
大坂表の御陣に供奉

寺宣

俄兵衛尉　生国同所
将軍家に仕へ奉てまつる

寺真
江州　生国同所
石淦院殿につかへ奉てまつる
大坂表の御陣に供奉
寛永六年五月廿日死し時
年六十六歳

守忠

江州　生國上総

将軍家ゟ二人扶持

家紋　丸の内井桁

稲田

正時

[illegible] 生国尾張
神[illegible]織田信長[illegible]
同秀[illegible]
[illegible]十文年六月八日六十歳
[illegible]

正勝

義義　生國因幡

秀頼につかへ

元和元年大坂落城の後六月廿四

死する

東照大権現に弥謁をなす

長法院殿

将軍家につかへまつる

正信

義義　生國山城

寛永十一年

将軍家に仕へまつる

家紋　月兎

寛永十一年六月十六日四十八歳

にて死す　法名玄蕃

国立公文書館
National Archives of Japan

杉田

●玄政

彰兵衛尉　生国三河

東照大権現ゝ御人ゝそゝつゝ

右政

童名金次郎　彰兵衛尉　生国同前

少年より
大膳亮[illegible]
大膳亮の御姫君薄雪殿秀行と
嫁し給ふ　約命にして
右政所姫君[illegible]
秀行[illegible]屬し秀行逝去の後ふたび
淺野但馬守長晟に嫁し給ふ
右政所姫君つゝふまつり藝州
廣島にて死し七十余　法名宗西

重政

九兵衛尉　生國山城
少年のゝち下野守忠吉に
仕ふ
右政所なくみとり実ハ二林久兼
政之の形り政之剃髮して作庵
水号ス
大膳亮の[illegible]も柔地と成り

城別宮造り畢ぬ
改之り文作唐城別り業三別り
をもむき
大将現しかくまかりまて
慶長之年関原陣の時
八月朔日伏見松丸しをいく討死
四十九案 法名西参 家紋丸内三本枝
寛永之年十一月十五日重改りられて
石清院殿を祢猪也

枝田

忠右

加賀清厨　生國近江　佐々源

浅井下野守

忠重

加賀米厨　生國同前

浅井下野守にて
元亀三年下野守卒して後
法人となり七十八歳まで
死す　法名海林

忠次

九郎兵衛尉　生國同前
其後秀次にて秀次薨し
て後大久保石見守に有之

その子先祖に
東照大権現
右法院殿
将軍家に仕へ
六十六歳にて死す

直次

六之助　生国同前
寛永四年七月

為軍家ゝ渇仰し奉り候
御動定乃役を仕とむ

家紋　藤乃丸

指田

忠久

右馬助　生國武蔵

武州源義朝公

七十二歳ヨリテ死ス　法名道義

忠右

右馬助　生國同所

之枝没落の枝菱沼小大膳と云ふ

寛永七年小大膳死して枝切

断絶

東照大権現に謁して出世

恩の御城番を仕る心ぞのち

長慶院殿に仕へ奉て出当

六十四歳にて死せ　法名蒼江

忠重

又兵衛　生國同所

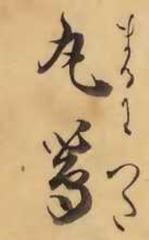
寛永十年

将軍家に御目見まつる

同十七年に御召出江戸に居る

御賓客の番を仕る

家紋



国立公文書館
National Archives of Japan

指図

久後

新太郎　生駒三河

廣忠つゝしり作

久次

源兵衛尉　生駒因幡

より
東照大権現より法名を賜はりて
元和元年閏五月廿日七十四歳にて
死す　法名道西

延久

源右兵衛尉　生国同家
寛永六年十二月十五日より
右徳院殿より法名を賜はりて

同八年正月
将軍家へ初めて
家紋　丸内三葉柏

国立公文書館
National Archives of Japan

奥田

忠言

巻二河寺　中玉山城

初を書永弾正殿人数攻戦

場小く軍切あり如何が思へり

弾正或ハ申げるこゝとゝ考北小手

とゝらて出しを麗或いゝげる

指揮こうれい　兵力をあつてられを
賞し　安藤代こあいはふこと度
なほ秀衡　しつふ

文長元年
東照大権現関原御陣の度忠義
の軍功　こゝ　生　出　人
なるべきの仰あるに
江州大津にて神社
八十歳にて死

志次

三帰京　生国山城
二十九歳乃ときこれを遺跡をつぐ
大権現　御入京
文長十九年大坂御陣に伏見城
御出馬
望み大坂再陣　文月六日道明寺
迄分　戦死　四十二歳

忠一

生兵衛尉　生国同家
十三歳ヨリ六次ガ家督ヲ継ギ
城外ニ住ス
大權現ヲ拝礼ス
石清水院殿
将軍家ニ仕フ
三十四歳ニシテ死ス

忠虎

生兵衛尉　生国武蔵
十三歳ヨリ
将軍家ニ仕フ

家紋　丸内横二引

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan